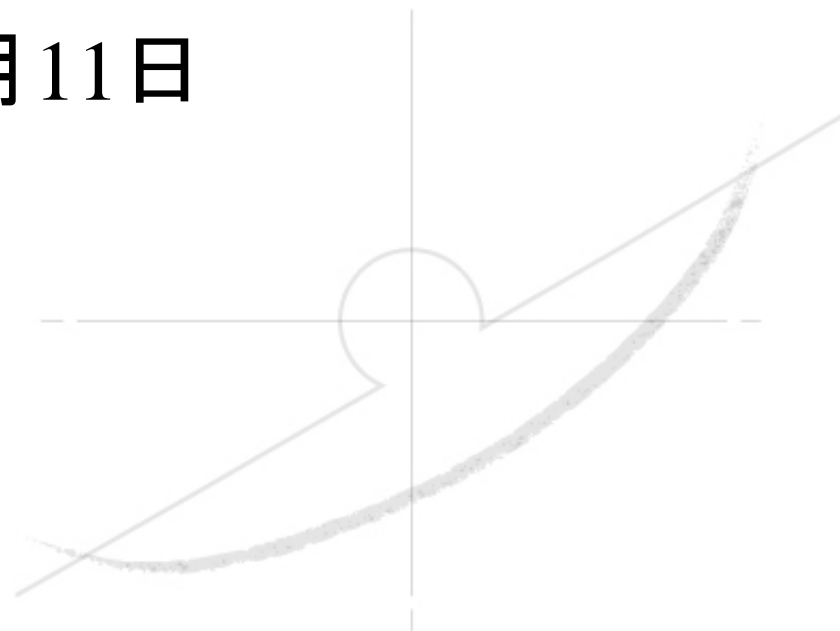




2008年度 通期決算の概要

2009年5月11日



2008年通期決算(連結) ハイライト

12月以降急減速ながら増収を維持

- 売上高 3,911百万円(前年比2.0%増)
 - 光部品:上期は順調 12月以降は特に北米向け急減速
 - 光測定器:主にOCT関連が寄与し売上増(前年比40.1%増)

減益ながら営業・経常は黒字確保 特損で最終赤字

- 営業益163百万円(前年比▲63.8%) 経常益75百万円(前年比▲78.5%)
- 当期純損失108百万円
 - 投資有価証券評価損 米国子会社の繰延税金資産取崩し

次世代新製品開発及び新事業分野の開拓

- 海底向け偏波スクランブラー出荷
- 100G/コヒーレント通信用光部品開発
LCOS基礎研究
- OCT製品の産業用展開

OCT Optical Coherence Tomography

光の性質を利用して、物体の断層画像を生成する技術。無害であることや、X線よりも詳細な情報を取得できる特長がある。

LCOS Liquid crystal on silicon

リアプロジェクションTVなどに使われる技術で、シリコンチップの表面に直接液晶を載せるという特長をもつ。

2008年 通期実績 (連結)

光部品減速するも 売上高2.0%増

(単位 百万円)

	07年 通期	08年 当初予想	08年 通期	前年度比		当初予想 差異	
売上高	3,833	4,750	3,911	+77	+2.0%	▲839	▲17.7%
営業利益	450	590	163	▲287	▲63.8%	▲427	▲72.4%
経常利益	353	565	75	▲277	▲78.5%	▲490	▲86.7%
純利益	280	550	▲108	▲388	▲138.7%	▲658	▲119.6%

概況

当初予想を下回る

12月以降光部品急減速

OCTが下支え

営業益・経常益 減少

円高で利益押し下げ

為替差損 97百万円

経費・労務費圧縮で対応

最終赤字

投資有価証券評価損
83百万円

USA繰延税金資産取崩し
89百万円

2008年 総資産および純資産の状況(連結)

(単位 百万円)

	07年 期末	08年 期末	前年度末比	
総資産	7,951	7,612	▲339	▲4.3%
純資産	7,036	6,774	▲261	▲3.7%
株主資本比率(%)	89.2%	90.6%	-	+1.4 (%)
一株当たり純資産 (円)	589.32円	566.36円	▲22.96 円	▲3.90%

概況

総資産 減少

流動資産減少 ▲116
(売掛金減など ▲377)

繰延税金資産取崩し▲89

投資有価証券評価損 ▲83

純資産 減少

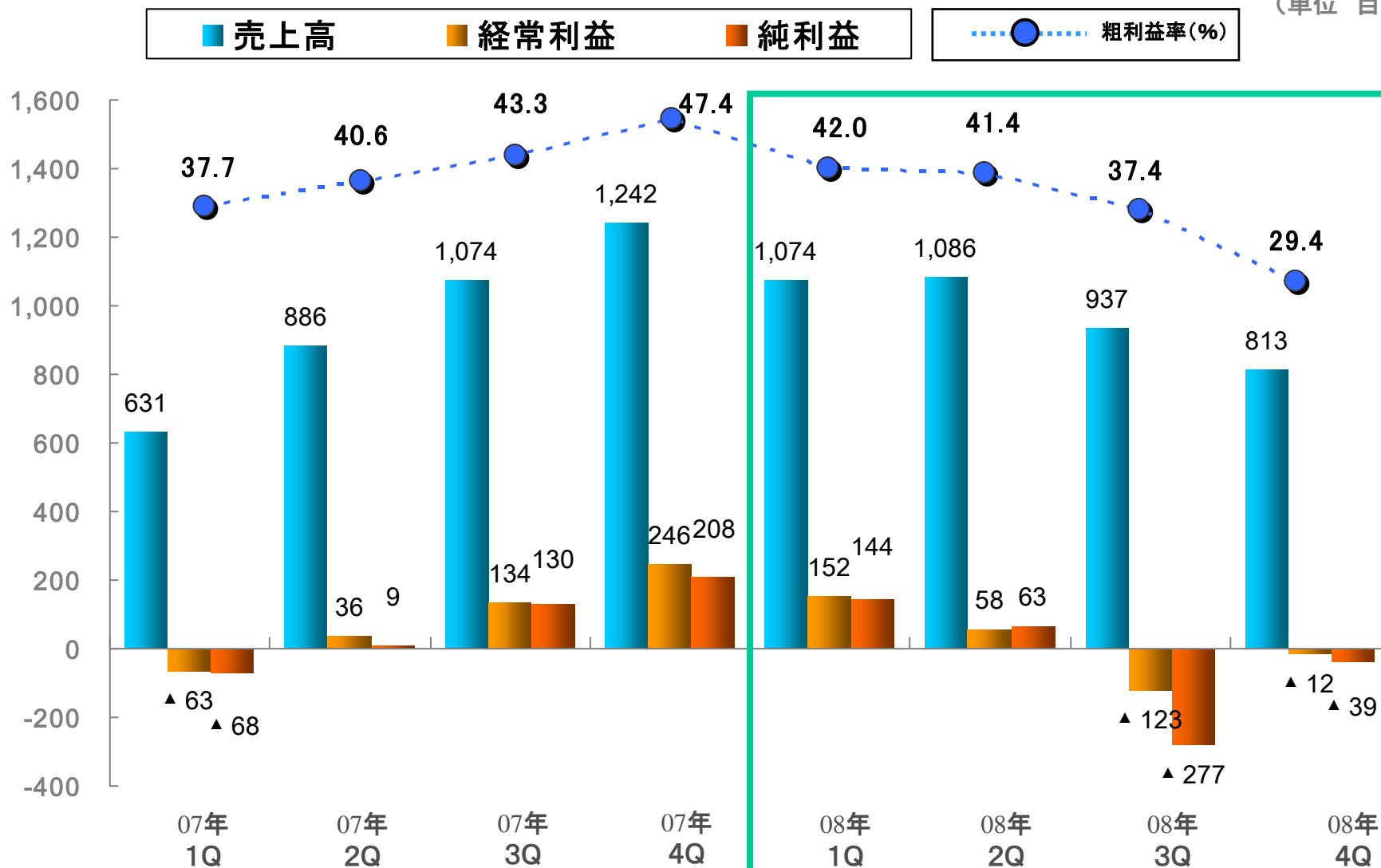
利益剰余金の減少 ▲203
(配当金支払 ▲95
当期純損失 ▲108)

為替換算勘定減少 ▲58

業績の推移(四半期・連結)

円高で売上・利益に逆風

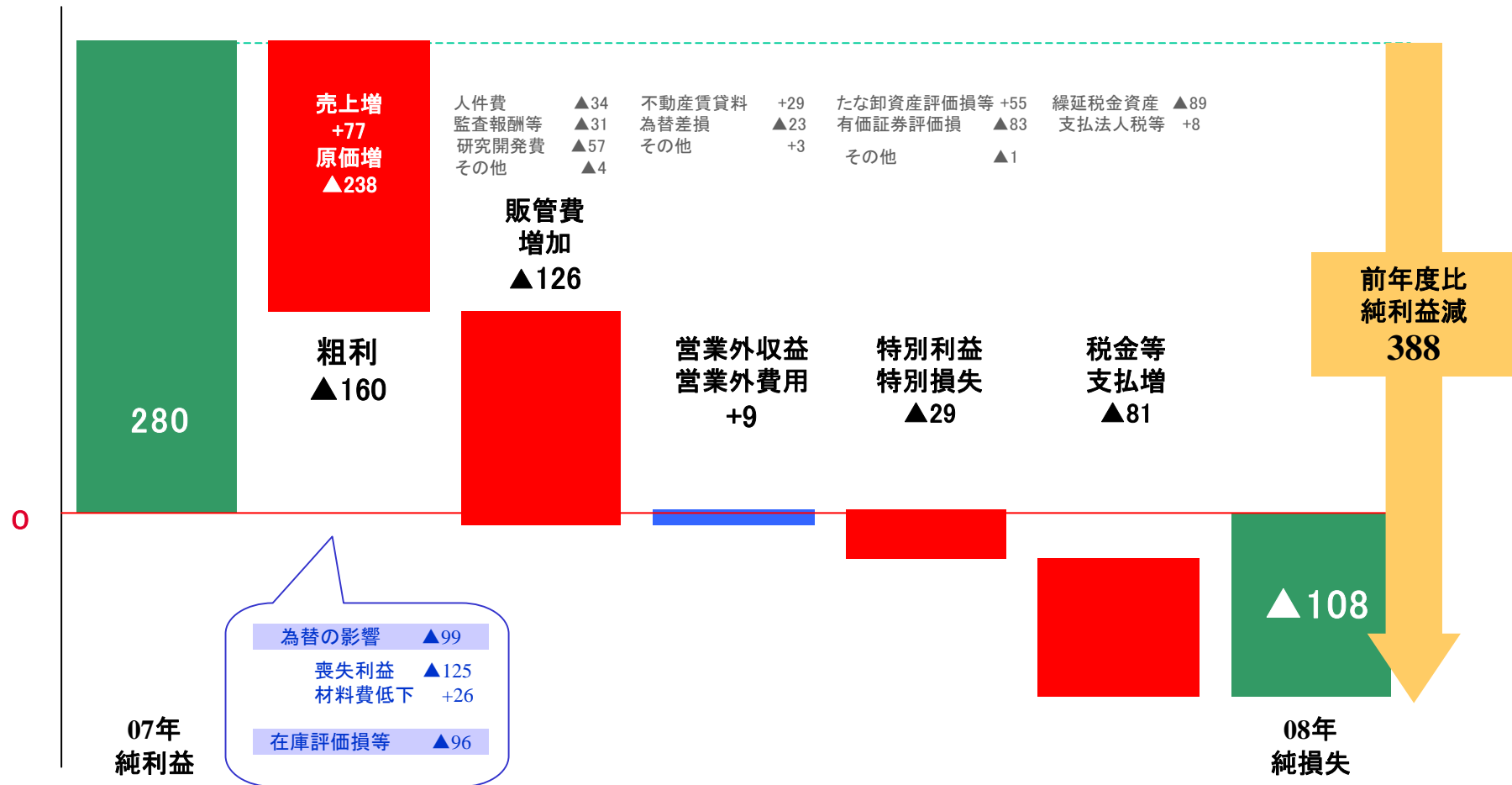
(単位 百万円)



当期純利益減少の要因分析（連結）

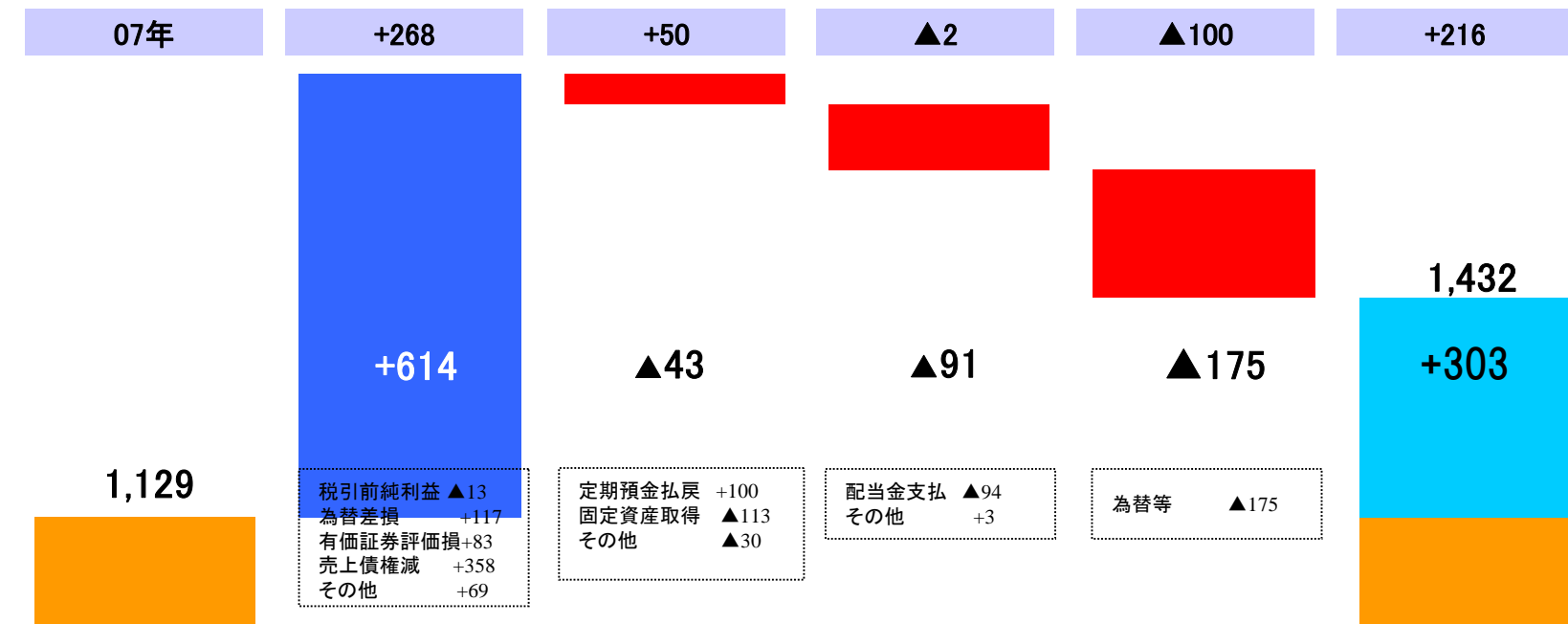
売上増も、為替差損等で流出

（単位 百万円）



キャッシュ・フロー（連結）

(単位 百万円)



期首残高

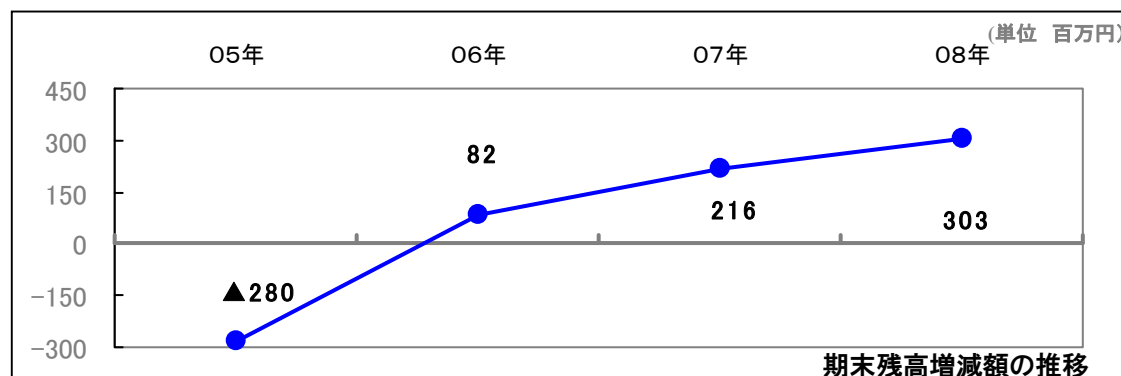
営業

投資

財務

換算差額

期末残高



事業別売上高 (連結)

光部品減速 光測定器OCT始動

(単位 百万円)

	07年 通期	構成比	08年 通期	構成比	前年度比	
光部品	2,942	76.7%	2,730	69.8%	▲211	▲7.2%
光測定器	667	17.4%	935	23.9%	+267	+40.1%
その他	224	5.9%	245	6.3%	+20	+9.3%
うち ソフトウェア	223	5.8%	242	6.2%	+19	+8.8%
合計	3,833	—	3,911	—	+77	+2.0%

概況

光部品 急減速

上期: 中長距離向成長

下期: 景気警戒感で減速

光測定器 成長

OCT光源OEM供与開始

更なる拡販を目指す

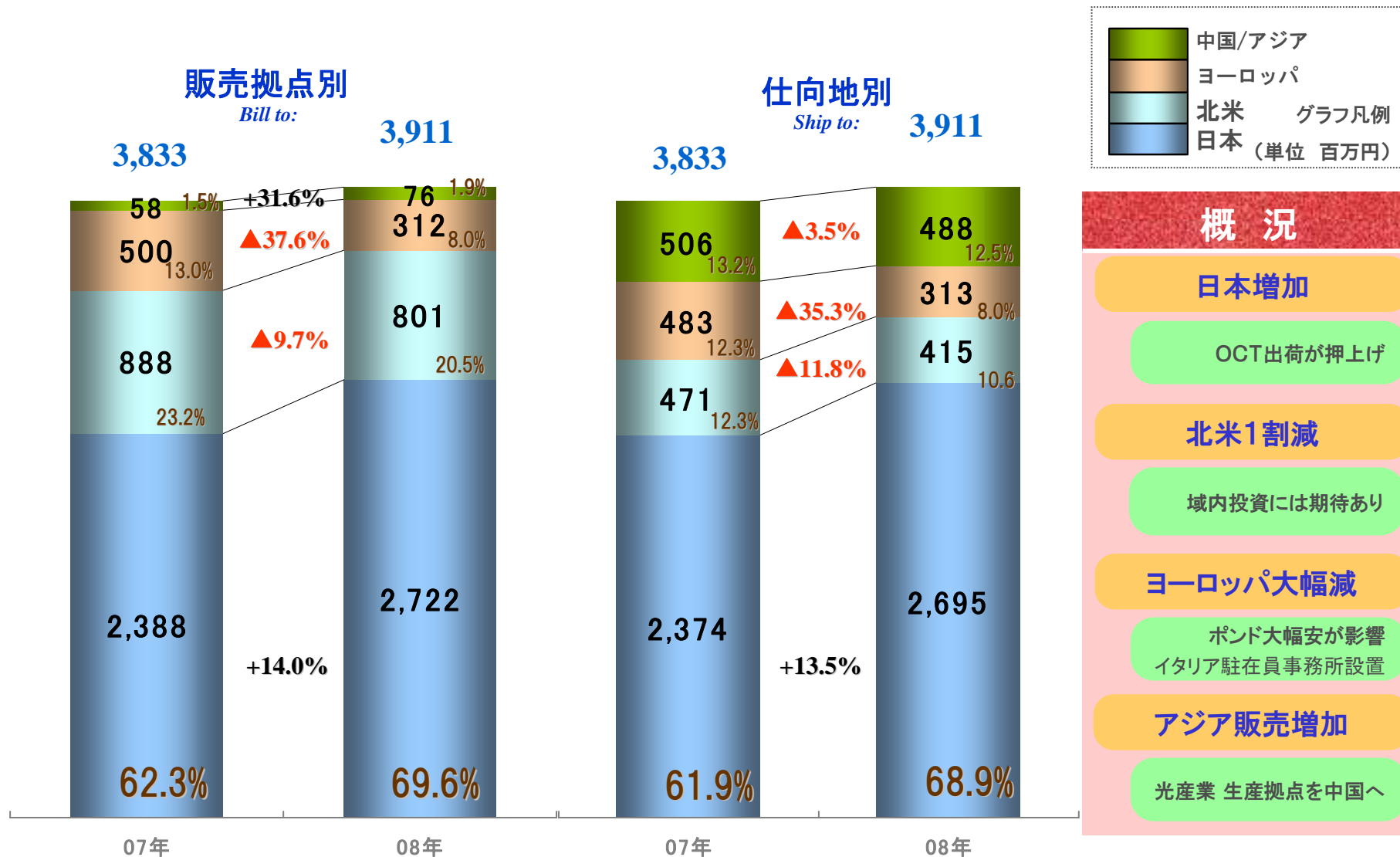
ソフトウェアますます

ASPで積み上げ

新規商材注入へ

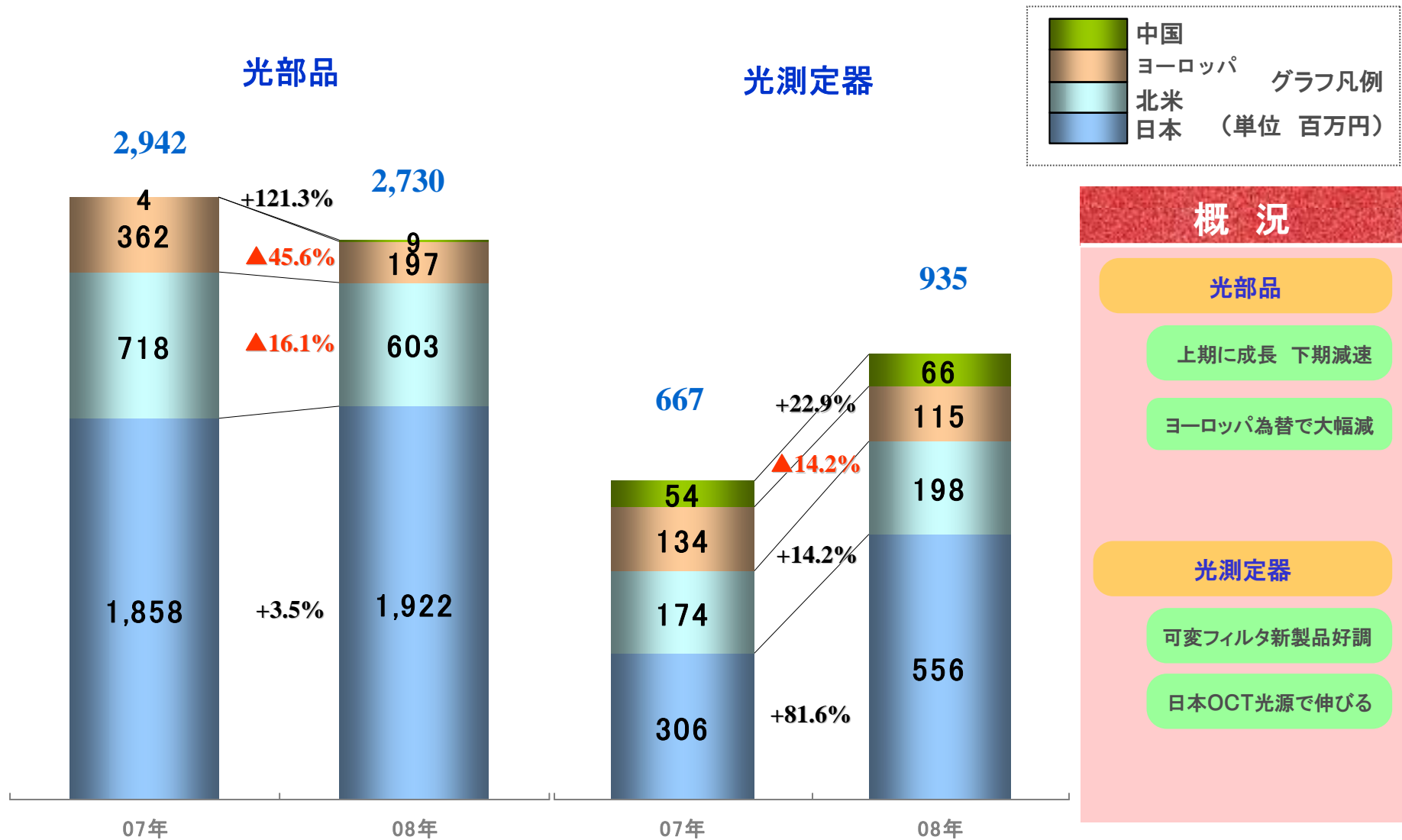
地域別売上高（連結）

北米 欧州が減少



拠点別売上高(拠点/事業別・連結)

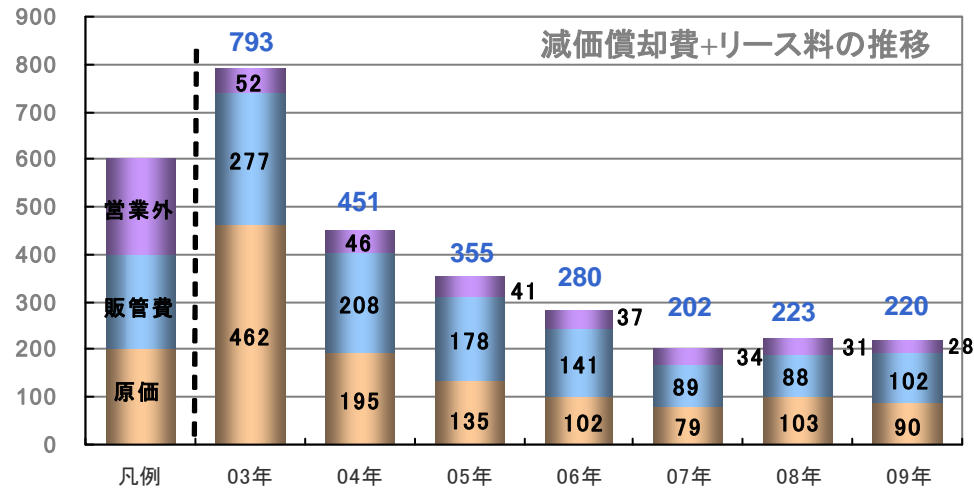
日本はOCT分で押し上げ



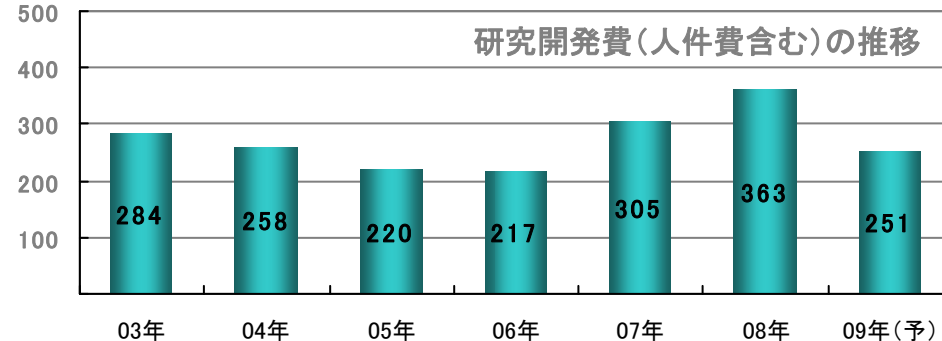
減価償却・リースと投資の推移

的を絞った効果的投資を実施

(単体/単位 百万円)



(連結/単位 百万円)



09年度 主な設備投資の計画(単体)

量産用製造設備等

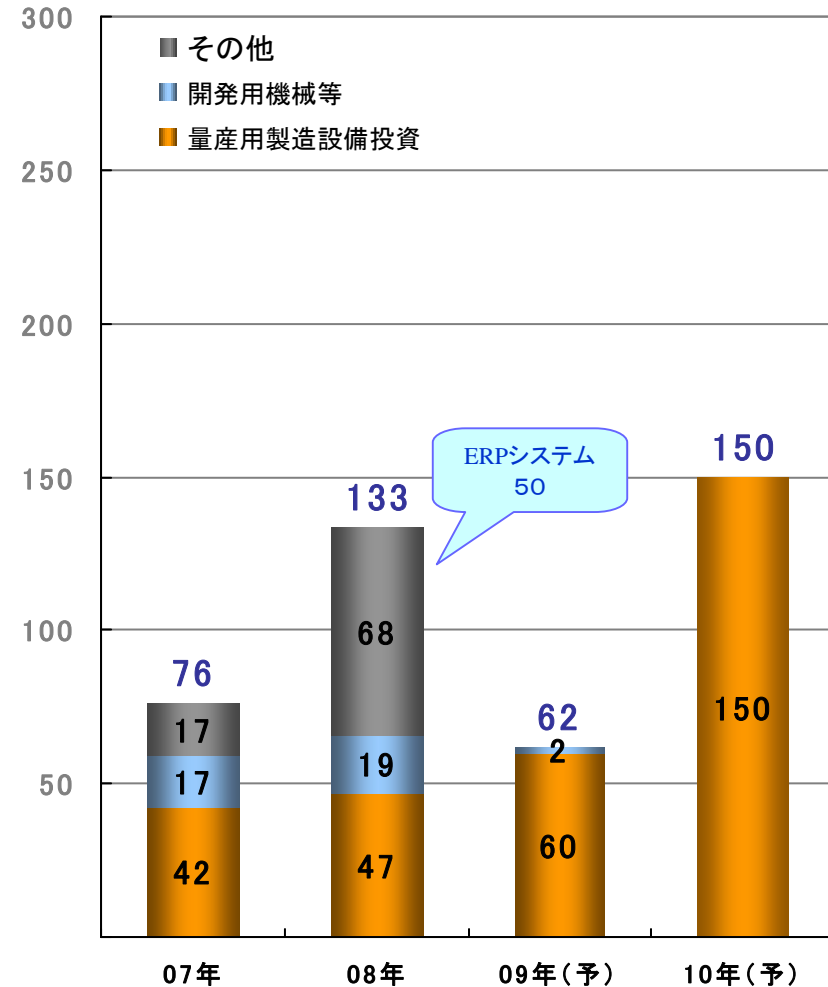
60百万円

開発用機械装置等

2百万円

今後の設備投資計画

(単体/単位 百万円)



2009年通期予想（連結）

厳しい環境下でも、黒字を目指す

（単位 百万円）

	08年 通期	09年 2Q予想	09年 通期予想	08年度比（通期）	
売上高	3,911	1,241	2,940	▲971	▲24.8%
営業利益	163	▲102	82	▲81	▲49.7%
経常利益	75	▲132	22	▲53	▲70.7%
純利益	▲108	▲135	17	+125	+115.7%



市場動向と 当社の事業戦略



光通信市場のゾーン別状況

Long Haul

長距離通信

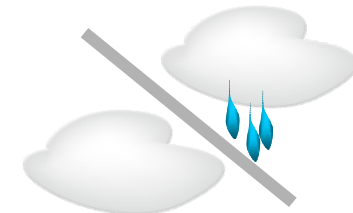
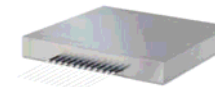
- 海底ケーブル向け設備投資は淡々と
- 急減速は発生せず



Metro

中距離・都市間通信

- 地域差大きい。北米・欧州では減速
- アクセスの通信量増加に押し上げられる



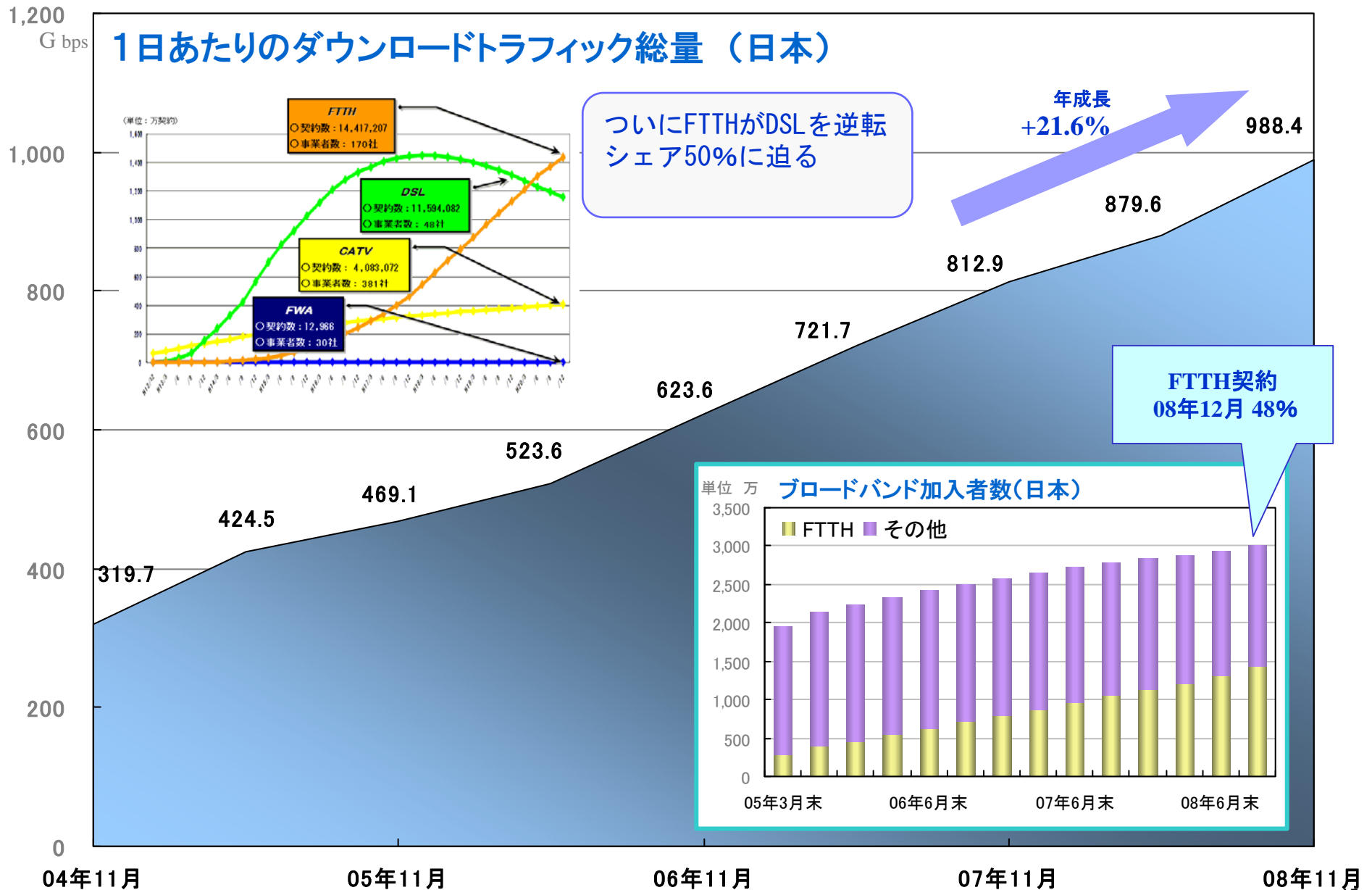
Access

局舎＝加入者間通信

- 日本がFTTHをリード
- 日本では急減速はない模様
- 次の技術の導入にも意欲



光通信市場 通信量増加傾向継続



(出所:総務省「我が国のインターネットにおけるトラフィックの推移」より当社作成)

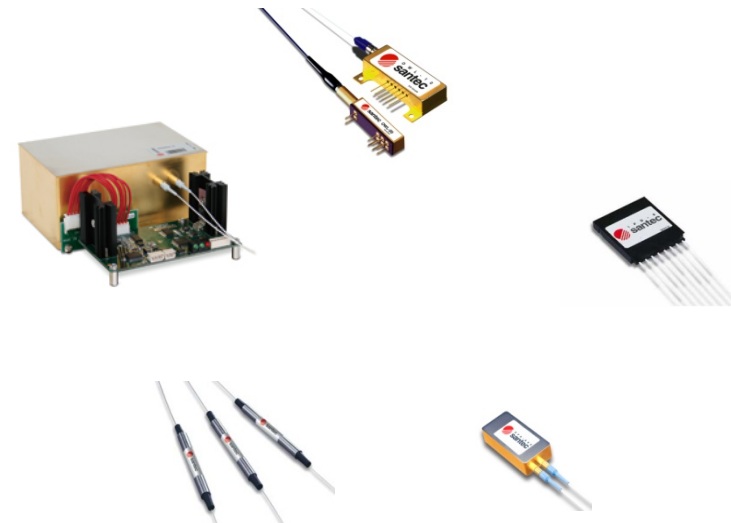
Smart Grid



Cloud Computing



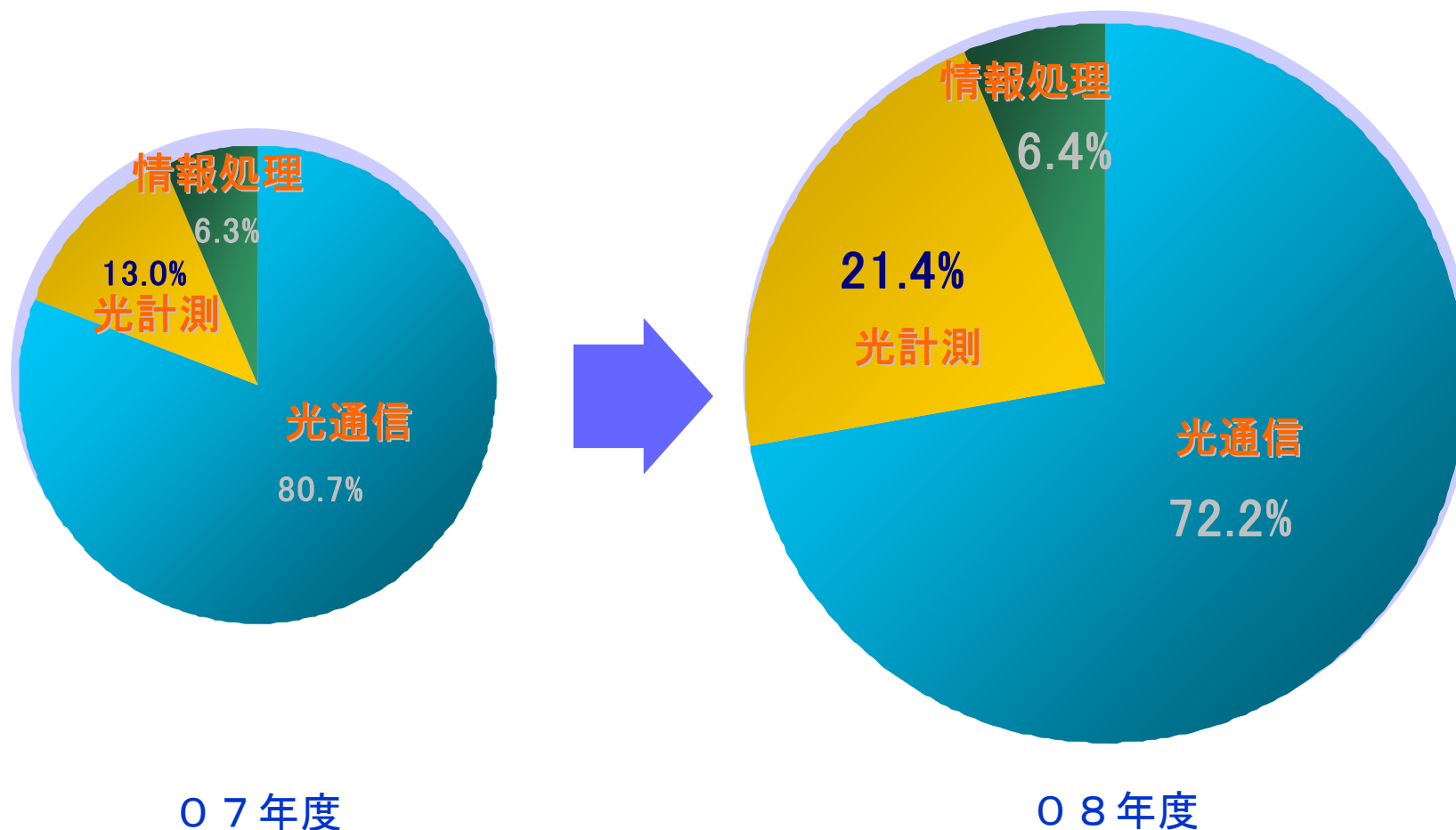
SaaS



当社の属する市場

光技術を軸として活躍の場を広げる

当社の売上における応用分野の割合変化



光計測応用 新用途開花へ

OCT応用はこれから

医療診断



工業用

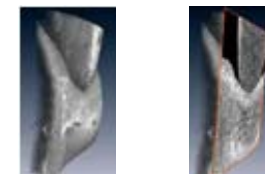


歯科



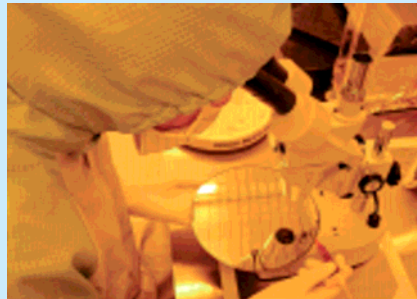
OCT Optical Coherence Tomography

光の性質を利用して、物体の断層画像を取得するもの。近赤外線を利用するため、非破壊・非侵襲であることや、X線よりも詳細な情報を取得できるのが特長。



最近の主なTopic

LCOS技術を導入



当社はこのたび、LCOS技術を導入いたしました。

LCOS技術は特殊な液晶技術であり、当社の光部品には勿論のこと、様々な製品への応用が期待されています。

OCT用光源装置 注目あつめる

当社のOCTシステムは、光の干渉等の性質を利用して物質の断面画像を「リアルタイム」「非破壊」「非接触」「無害」に生成することができます。

医療用のほか、工業用途などでも展開を目指します。



偏波スクランブラーを拡販



当社の「偏波スクランブラー」製品を、国内の海底ケーブル通信を扱う主要3社すべてに納品しました。

偏波スクランブラーは、超長距離通信において安定した結果を導き出す重要な部品です。当社の製品は、処理能力が世界最速との評価をいただいております。

イタリア駐在員事務所を設立



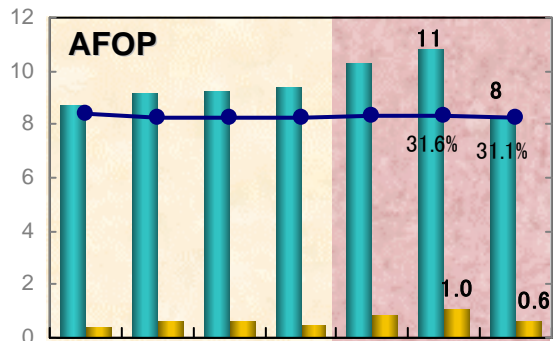
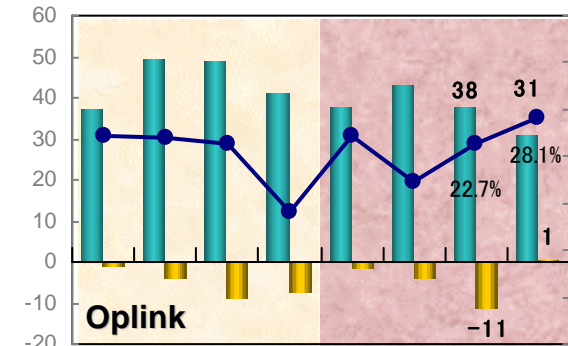
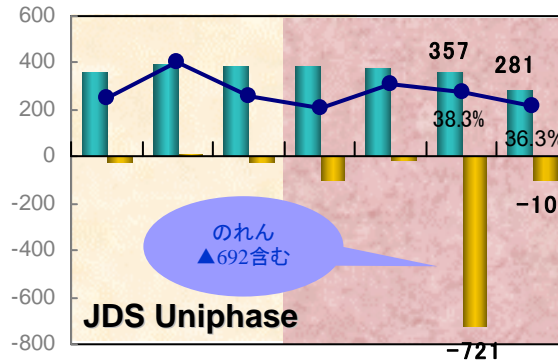
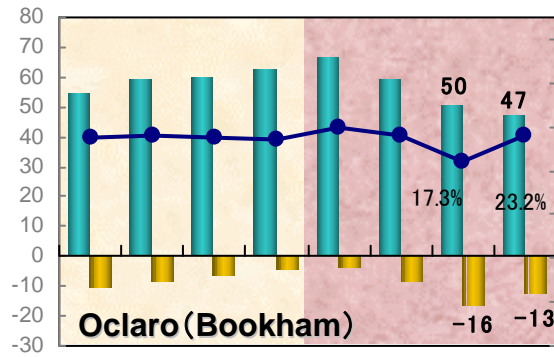
イタリア ミラノ市に駐在員事務所を設立しました。

ミラノ近郊には、複数の当社顧客が拠点を有していることから、営業戦略上の要所となっています。

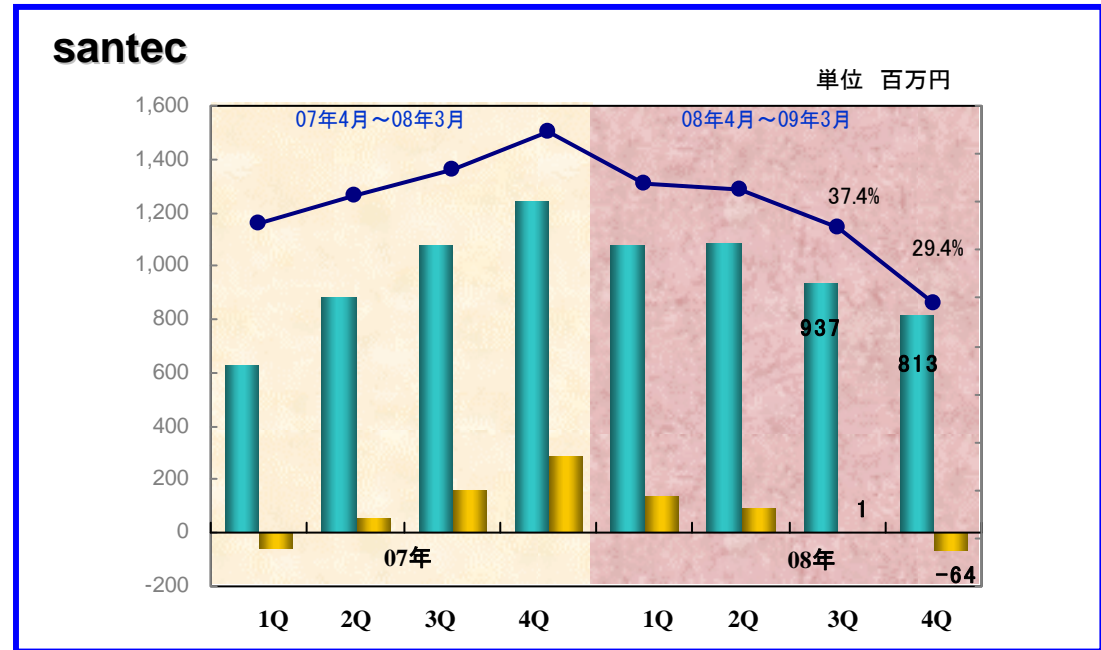
欧州における市場調査を中心に活動を展開します。

ベンチマーク 四半期業績の推移比較

12月以降 売上減少傾向



凡例	単位 百万ドル
■ 売上高(Net Revenue)	
■ 営業利益(Operating income)	
● 粗利率%(Gross Profit / Net Revenue)	



※各社開示資料から弊社作成。
 ※各社とも決算期が異なりますが、便宜上当社グループの決算期にそろえて色分けしています。

2009年度

全社基本方針と経営目標



2009年度 全社基本方針と経営目標

■基本方針

徹底した経営効率向上と新事業の創設

■経営目標

1. 新製品、新規事業、新技術の立上げ

2. BU制導入による事業スピード、経営効率向上

3. 徹底した原価低減推進と粗利益の確保

4. 経費、労務費の徹底削減と損益管理強化

新製品、新規事業、新技術の立上げ

厳しい環境を勝ち残り、次なる発展へ

新製品



- ラボ製品の充実
- ソリューション事業
- 新商材導入

新規事業



- 次世代光部品の創造
- OCT活躍の場を拡大

新技術

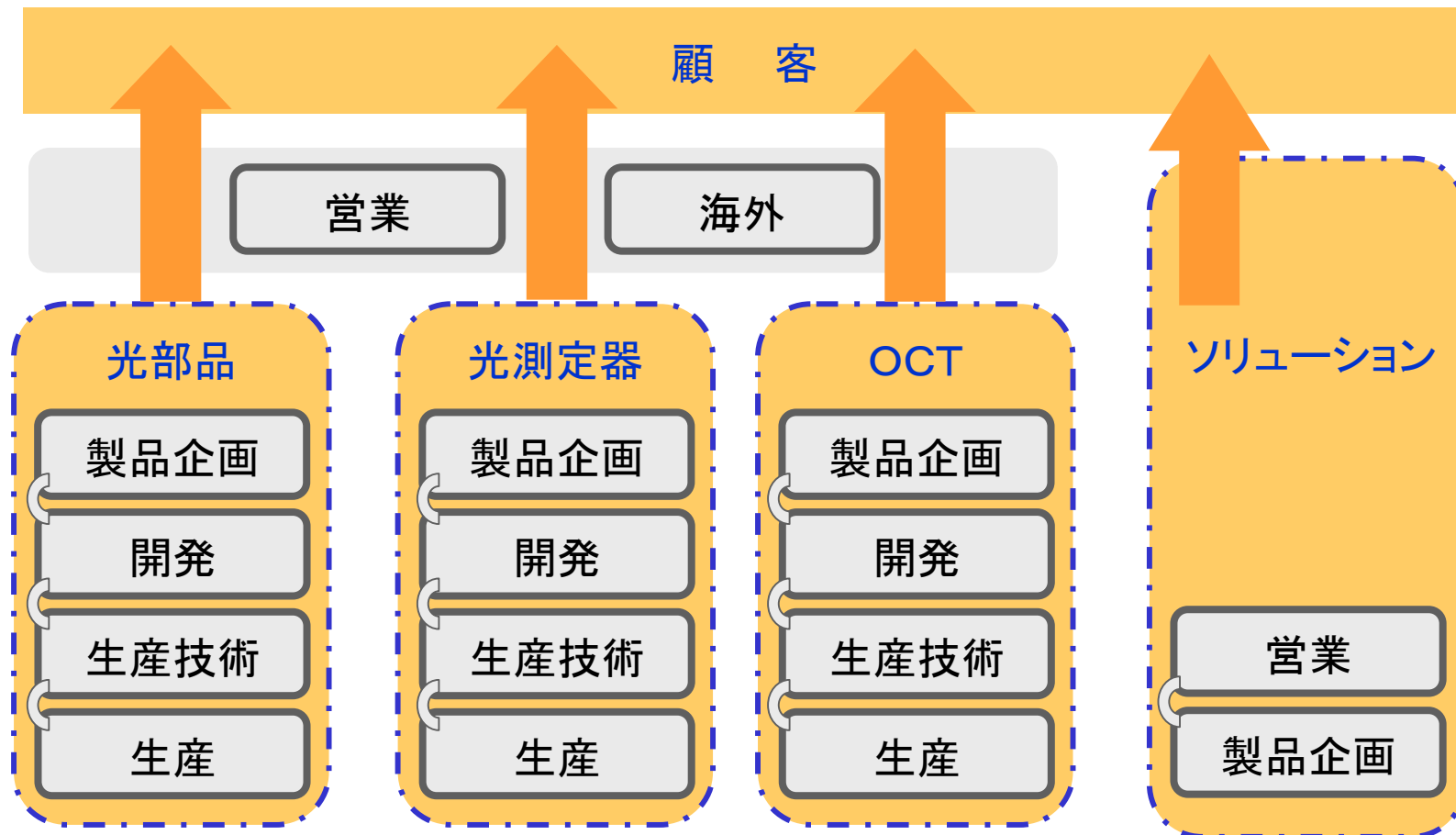


- LCOS 技術を獲得
- 光部品へ幅広く応用
- 部品以外にも適用

重点課題

ビジネスユニット制の導入

製品企画から生産まで一体の組織で顧客サポートを充実



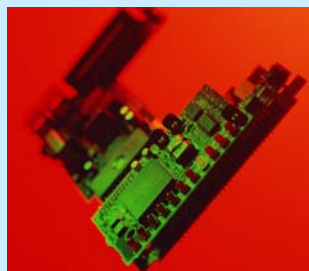
徹底した原価低減推進と粗利益の確保

利益確保



- 顧客密着で情報確保
 - 提案型営業で高利益
- 研究用途受注 強化
 - 研究機関への営業強化

既存製品改良



- 設計変更で効率向上
- 徹底した原価管理

調達見直し



- マルチベンダー化促進
- 原価分析と改善実行
- 調達先吟味

経費、労務費の徹底削減と損益管理強化

人員配置の適正化



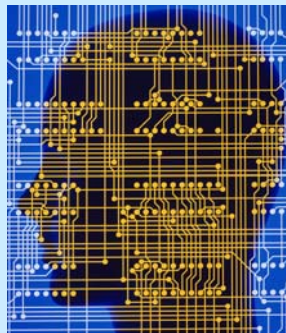
- 作業効率と実働率管理
- 多能工化促進
 - 生産現場を知悉した技術者
 - 現場から生まれる改良
 - 意思疎通の円滑化

効果的な研究開発



- 必要な投資は実施
- 研究費を外部から獲得
 - コラボレーション
 - 受託研究

スキル向上で内製化



- 外部技術の獲得
- 意欲的な内製化実施
 - 外注コストの削減
 - 提案力も大幅向上



The Photonics Pioneer of Networking

—— ネットワーク時代の光技術先駆者になる ——

本資料における当社の今後の計画、見通し、戦略等の将来予想に関する記述は、当社が現時点において合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等の結果はこれらの見通しと異なる可能性がありますことをご了承ください。

本資料に関するお問合せ先

santec株式会社
IRグループ長 水島 大介
電話 0568-79-3535(代表)
URL: <http://www.santec-net.co.jp/>

〒485-0802
愛知県小牧市大草年上坂5823
フォトニクスバレー 大草キャンパス